

# パソコンによる文化財銘文年表の作成

高橋美久二（資料課長）・田中淳一郎（技師）

## 1. はじめに

当山城郷土資料館では、1982年の開館当時から備品の一つに当時としては、最新鋭機のパソコンが導入された。これは、資料館の収蔵資料、調査資料および収蔵図書などの整理とワープロに使用することが目的であった。

当時、市販ソフトなどによって、資料整理などに挑戦し、いくつかのデータを入力して、パソコンの有効利用を試行錯誤した。しかし、当時のハードもソフトもほとんど漢字による入力、検索が難しく、文化財資料等に利用するには適したものとはいえなかった。このため、当時のパソコン利用は専らワープロ用となった。ところが、一方で当初の利用目的と

異なり、展示に利用できるのではないかと考え工夫してきた。これは、ファミコン世代の児童生徒に、当館の展示にもパソコンなどを利用して、遊び感覚で親近感を持ってもらえないかと考えてみたものであった。

遊び感覚で展示に興味を持ってもらう、これは言うは易く行うは難しである。1982年以来少しずつ、展示用（になるかどうか常に不安を抱きながら）のプログラムを作ってきた。そこで、1986年秋に行なった特別展「山城町の歴史と民俗」に初めて公開することとなった。それは、入館者に自由にパソコンに触ってもらい、好きな番組を捜して見てもらう、そういうものを作った。もっとも、いずれのプログラムも手作り、稚拙なものが多いが、



パソコンを使って開発された歴史解説ソフト  
(府立山城郷土資料館)

## パソコンで歴史勉強OK

少年たちのマイコンへの興味を歴史を学ぶの目にと、京都府立山城郷土資料館（京都府相楽郡山城町）の職員が独自の歴史解説ソフトを開発した。古墳や美術、地誌、民俗を知りたい項目を自分で選び、次々と興味のある柱をけられるのが特色で、将来は各種の資料検索にも応用していく。

アイコンを使った解説ソフトは、ソフトは大きなメニューと一歩突っ込んで、テレビゲームとして歴史・民俗・遺跡・古墳、地名・人口の四つがある。同様のソフトは例がなく、一からの出発だった。ゲームを繰り返す家もあったが、一さし小メニューが現れ、例えば歴史なら先史・信仰美術・絵画・農具、年表・風味のある項を選択できる。全部で十四項目あり、数分ずつ解説が画面に出てくる。

—府立山城郷土資料館—

## キーをたたけば「古墳」もひと目

また、解説には「コンピュータ・グラフィックの技術を使えば、古墳の造り方では斜面上土を積みながら古代人が巨大な石室を運び上げる様子や、ゲーム好きの子供の関心をそそる、古墳の形や大きさ比べも一目で分かり、また、教材となる。高橋課長は、このソフトを今後は資料検索一般へも常時公開したい考えで、データベースも順次、充実していく。さらに、地域の歴史館や、夢は広がるばかり、ソフトは来月三十日までの特別展で公開。

ソフトを開発したのは同資料館の高橋美久二・資料課長（左）と田中淳一郎技師（右）。ソフト作りは同館がオープンした五十七年にパソコンが導入されて以来、下準備を続けていた。最近の博物館の施設の動きとして、ただ遺物や史料を展示するだけでなく、ビデオなど視聴覚に訴える機器を備えるところが多い。同資料館でも解釋（たぐ）の音をテープで流したり、古墳展示の複製をオープン展示して来館者に置換、手で触れてもらう工夫をしている。マにした。

人に強占される恐れもあり、少し強い歴史解説にした。ちよつと、さきほかに二十日から特別展として「山城町の歴史と民俗」展が始まるため、同町の歴史を絞ったソフトにした。

第1図 パソコンによる展示解説の新聞記事（1986. 10. 21（火）京都新聞）

それでも小中学生やパソコン好きの大人にも結構受けた。

展示用プログラムは先ずメインメニューに4項目を設け、その中から好きな項目を選び、さらに各項目に2～5番組を選ぶサブメニューを設け、好きな番組を選ぶようにした。

手作りのプログラムによるパソコンを展示場へ出す初めての試みは、期待と不安の中で始まった(第1図)。パソコンの脇には、使ってみた反応を見てみたいと思い、「御意見ノート」を置いて、自由にその感想を書いてもらった。その感想ノートには、好意的な感想と注文が多かった。いくつか、プログラムの構造上の欠点など反省すべきことなども指摘していただいた。

これらの注文の中には、子供向けにもっと動きのある楽しめるものを注文するものが多い、一方で資料館に来た甲斐のあるもの、知識欲を満たすものという硬軟両面の要望のあることもわかった。

前者の要望については、ゲーム感覚で、遊びながら、楽しみながら、歴史の知識が得られるものを、さらに考えていく必要を感じた。

後者の要望については、データベースによって必要な情報を検索してもらうようなものを作る必要を感じた。データベースによる管内の文化財資料や館蔵資料のデータベースを入力し、入館者に自由に検索してもらい、必要部分をコピーできるようにする、そういうものも目ざしたいと考えた。

以下は、小規模なデータベースによる文化財銘文年表作成の経過とその成果を報告する。これは、南山城の文化財の基礎資料を集成し、その有効的な利用を図ろうとしたものである。

## 2. 文化財銘文カードの作成

パソコンによるデータベース処理をするには、基礎データベースの収集が最も基本的で、しかも重要な作業となる。この基礎データベースを収集

する文化財の対象を、当資料館の活動範囲等を考慮して、その種類、地域、年代等を次のように当面限定して行なった。

その対象とする文化財の種類は、それが造られたり、買い求められたり、修理が行なわれたりした記念すべき年号が入っている物全てを目標とした。このような文化財に刻まれた銘文を一般に「金石文」というが、ここで対象としたのは、金属製品、石造物に限らず、木、竹、紙、焼物など、書かれている素材にはこだわらない。ただし、紙に書かれた文書、典籍等はデータとしては集めているが、分量の問題等でパソコンへの入力には当面保留している。

資料を集める地域は当資料館の活動範囲としている南山城地域(京都市を除く旧山城国すなわち、相楽、綴喜、久世、宇治、乙訓の各旧郡)とした。これには、現在当該地域に所在しているものはもちろんであるが、かつて当該地域に所在したことが明らかで、現在他の地域にあるものもできるだけ収録するように努めた。さらに、最初から他の地域であっても、当該地域に関係あるものも収録するように努めた。例えば、奈良県の春日大社に寄進された石燈籠の銘文に南山城から寄進されたことが明らかなのは収録するという具合である。また、年代では慶長以前(1615年以前)を一応のメドとしたが、入力はともかく資料カードは近世のものもできるだけ収録していった。

パソコンへの入力用の基礎資料の収集に当たっては、当館の調査活動によって得られた資料、当地方の銘文資料の基本文献である『京都古銘聚記』などの公刊されている資料を参照したのはもちろん、京都府社寺課の「寺院重宝台帳」(1941-1945)、京都府文化財保護課の棟札等の調査資料、木津町在住の二滝泰輔氏、城陽市在住の篠原良吉氏の石造物の調査資料等の未公開資料の提供をも受けた。

入力用のデータベースは、1資料1枚のカード

銘文内容は間違いをさけるためできるだけコピーを貼る

名称は指定名称のつけ方に準じる 所有社寺名 年月日未詳のときは01

名称：木造地藏菩薩立像 西暦：1545

所在地：相楽郡山城町上狛崎良町3 西福寺 年号：天文14年7月23日

所在地2： 住所コード：38

種類：彫刻 木造 仏像 種別コード：211

形状法量：彩色立像 像高29.3cm 台度高8.0cm 台座裏に墨書

銘文内容：(銘)「妙香/与一 明寿/為六親眷/少賀  
藤二郎/天文十四年 与四郎 /  
(カ) 藤重 作主與三郎/属法界/  
危七月廿三日 西普/少藤 少次位  
上□ 藤菊 藤□ 道阿 □阿

参考文献 京都府教育委員会『京都の文化財』第3集 南山城編 1969. P175  
京都府立山城郷土資料館『山城町の歴史と民俗』1986. P18

住所コードは付表3

種別コードは付表1.2

出典にはページ数も  
できたら写真も貼る  
(裏面も可)

文化財の種類

- 建築
- 彫刻
- 絵画
- 工芸
- 歴史
- 考古
- 民俗など

文化財の材質

- 木造
- 銅造
- 石造
- 瓦製
- 竹製
- 紙本
- 絹本など

形態

- 仏像
- 神像
- 棟札
- 鬼瓦
- 五輪塔
- 卷子
- 冊子など

銘文の位置

- 表面
- 賛
- 裏面
- 側面
- 像内
- 台座など

銘文の方法

- 墨書
- 朱書
- 陰刻
- 陽鑄
- 刻印など

第2図 文化財銘文年表資料カードの記入要領

を作成した。このようなカードは、統一的な規格により、どの様なデータも例外なしに書き込める様式が要求される。これは、多様な文化財を全て想定していかなければならないことなので、非常に難しいことであるが、パソコンで処理できる限界なども考慮して、市販のB6判のカードによって、第2図のような様式で書き込みの約束ごとのようなものを決めた。

書き込む項目は、名称、西暦、年号、年月日、所在地、旧所在地、住所コード、種類、種類コード、形状、指定、銘文内容、参考文献の13項目を設定した。名称は銘文のある文化財の名称であるが、この名称を統一する事

に苦勞し、ついに最後まで統一する事ができなかった。たとえば、文化財保護法による美術工芸品の指定名称では「木造阿弥陀如来坐像」とその名称が「材質+種類+形態」で構成され普通名詞であるのに、建造物の指定名称では「平等院鳳凰堂」とか、石造美術関係者の間では「飯岡惣墓阿弥陀石仏」などと固有名詞的に名称が付けられているなど、文化財の分野毎に名称の付け方が異なり、しかも報告者によっても異なり、統一した名称を付けようとするれば、それぞれ実物に当たらないことになったためである。

住所や種類など並べ替え、検索が頻繁に行なわれる可能性のある項目は数字によるコー

表 1 文化財種類コード表(1)

大分類 中分類

	10	20	30	40	50	60	70	80	90	00
100 建築	寺院	神社	城郭	民家	町並み	公共施設	石造			その他
200 美工	彫刻	絵画	金工	漆工	陶芸	染織	石工	木工	諸工芸	その他
300 歴史	古文書	書籍	典籍	絵図	雑誌	写真	歴史事象	歴史人物		その他
400 考古	土器	瓦、磚	石器	鉄器	青銅器	他金属器	骨皮製	木製	他植物製	その他
500 民俗	衣食住	生産生業	交通運輸	交易	社会生活	信仰	民俗知識	芸能競技	一生活事	その他
600 史跡	集落	官衙	社寺	教育	社会事業	産業交通	墳墓	由緒	外国人	その他
700 名勝	庭園	橋梁	花樹	鳥獣	洞穴	峡谷	湖沼	海岸	山川	その他
800 天記	動物	植物	鉱物							その他
900										
000 その他										

表 2 文化財種類コード表(2)

中分類 細分類 200 美術工芸

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
210 彫刻	木仏像	木神像	木肖像	金仏像	金彫他	石仏像	石造他			その他
220 絵画	仏画	肖像画	大和絵	文人画	浮世絵	近代画				その他
230 金工	鏡鑑	刀剣	武具	梵鐘	鯛口	燈籠				その他
240 木工										その他
250 漆工										その他
260 陶芸										その他
270 染織										その他
280 石工	燈籠	水鉢								その他
290 諸工芸	紙工	革細工	貝細工	べっ甲	牙角	宝石				その他
200 その他										

ド化(表1、2、3)を行ない、それぞれ住所コード、種類コードの項目を設けた。このコードは、当資料館で収蔵台帳等に使用しているコードと共通させている。コード化する項目を増やした方が将来の検索の便を考えると便利であるが、カードの作成や入力の手間とパソコンの限界を考慮してコード化する項目はこの2項目に限った。

### 3. データーの入力

パソコンはよく車と同じだと言われる、その複雑な構造は知らなくても使いさえ分かれれば、誰でも簡単に使いこなすことができるからである。この文化財銘文年表もパソコンの専門的な知識がなくても使用できるように構成にするよう努めた。そのために、スイッチを入れれば、対話式で目的の仕事ができる



ようにし、データーの入力も資料カードと同じ様式のカード形で入力できるようにした。

データーの入力は、西暦、年月日、住所コード、種別コードなど数値になっている項目は、半角の数値として入力した。こうすれば検索のスピードも速く、並べ替えや幅のある検索ができると考えたからである。ところが、数値として入力する場合は、パソコンでは実数を入力する必要があり、不明な年月日などを不明なままにしておけない。たとえば、「慶長□年□月」と銘文の中で年月の数字が摩滅などによって読めなかった場合や日にちまで記されていない場合には不明として空欄で入力ができない、このため不明の年月日などは「01」を入力した。したがって慶長□年＝慶長01年＝西暦1596年となり、年表の上では、各年号の元年のものが実数より多くなることとなる。

銘文内容は、パソコンの限界や入力の手間を考慮して全角文字で150字までとした。この字数で、木簡、普通の石造物、造像銘などはほとんど全内容が入力できるが、字数の多い梵鐘、棟札、絵画の賛や裏書などは全内容

表3 市町村別データー数

住所コード	郡・市町村名	銘文年表	古銘聚記
38	相楽郡 山城町	31件	5件
37	木津町	124件	15件
39	精華町	28件	8件
41	加茂町	207件	40件
42	笠置町	11件	6件
40	和束町	19件	5件
43	南山城村	8件	0件
34	綴喜郡 田辺町	39件	15件
35	井手町	4件	2件
36	宇治田原町	18件	2件
30	久世郡 久御山町	8件	0件
31	城陽市	30件	3件
32	宇治市	261件	12件
33	八幡市	51件	34件
27	向日市	48件	4件
28	長岡京市	11件	2件
29	乙訓郡 大山崎町	16件	7件
	その他	10件	
	合計	924件	160件

表4 文化財銘文年表の出力データー

南山城の文化財銘文年表			
名称	西福寺木造地藏菩薩立像		
西暦	1545	年号   天文	年月日   07/23/14
所在地	相楽郡山城町上狛小字良町3 西福寺		
旧所在地			
住所コード	38		
種類	彫刻 木造 仏像	種別コード	211
形状	立像 像高29.3cm 台座高8.0cm 台座裏に墨書		
指定			
銘文内容	「妙香ノ与一 明寿ノ為六親眷ノ少賀ノ藤二郎ノ天文十四年 与四郎ノ(カ) 藤重 作主 与三郎ノ属法界ノ乙巳七月廿三日 西善ノ少藤 少次位上ノ藤菊 藤口 道阿 口阿		
参考文献	京都府教育委員会『京都の文化財』第3集, 南山城編 1969. p175, 京都府立山城郷土資料館『山城町の歴史と民俗』1986. p18		

が入力できない。このため、造営の目的、年月日、寺社名、地名、人名などを残して適宜省略して入力した。また、検索の便を考慮して、旧字、異体字、略体字などではできるだけ常用漢字で入力した。

なお、一度入力したデーターの修正削除についても、対話式メニューの選択によって簡単に行なえるようにした。

資料カードの書き込み様式やその入力方針などを最初からきっちりと決めず、その場

その場で対処しながら、しかも他の仕事の合間に資料カードの作成と入力作業とを併行して行なっていた。このため、つねに試行錯誤しながら、悪戦苦闘を重ね、さらに校正作業に多大の労力を要したが、多くの人の協力を得ながら、ともかく昭和62年度中に約900件のデーターを集めて入力することができた。

#### 4. 成果と課題

入力できたデーターを市町村毎に集計したのが表3である。これには当地方の銘文資料の基本文献である『京都古銘聚記』（1941年刊）に収録されたデーター数と比較してある。総計で約6倍と飛躍的に数が増えているのは、収録対象の違いもあるが、戦後の郷土史資料の調査の進展を物語っているともいえる。市町村別では、宇治市、加茂町がだんぜん多く、木津町がそれに次いでいる。これは、もちろん文化財の多寡にもよっているが、銘文資料の大半を占める石造物資料の調査精度による要素が大きい。

表4は、第2図で入れたデーターをカード式で出力したものである。このように1点づつをカード式で出力してもそれほど有効な使い方ではない。目的に従って、データーを検索し、年代別とか種類別に整理したものが一

覧表で出力されてくるとパソコンを利用した効果は大きい。このため、検索もやはり対話式に目的のものが検索ができるように次の9項目から選ぶように設定した。

- (1) 名称による検索
- (2) 西暦による検索
- (3) 年号による検索
- (4) 住所コードによる検索
- (5) 種類による検索
- (6) 種類コードによる検索
- (7) 指定の種類による検索
- (8) 銘文内容による検索
- (9) 複合条件による検索

さらに、9番目の複合条件による検索では、次の5項目から選ぶように設定した。

- (1) 名称と西暦による検索
- (2) 名称と住所コードによる検索
- (3) 種類と住所コードによる検索
- (4) 種類と西暦による検索
- (5) 種類と住所コードと西暦による検索

名称や銘文内容による検索では、その一部に検索したい語句を含んでいれば検索できるようにした。表5、6は名称による検索によって太鼓と鰐口の銘文年表を作成したものである。

また、西暦による検索では、検索したい範囲の西暦の上限年と下限年を入れてその中に

表5 南山城の大鼓の銘文年表

名称	西暦	所在地	種類	銘文内容
締太鼓	1432	相楽郡加茂町錢司 四所大明神旧蔵	工芸 木造 締太鼓	四所大明神 錢司庄 口典樂 永享四年壬子九月一日
木造太鼓	1517	相楽郡加茂町錢司 宮ノ前3 春日神 社	工芸 木造 太鼓	春日大明神ノ錢司庄ノ永正十 四丁丑年八月一日
木造太鼓	1558	相楽郡山城町神童 子不晴谷 神童寺	工芸 木造 太鼓	弘治四年戊午二月日ノ蔵王堂 ノ椿井加賀公寄進
木造太鼓	1606	相楽郡加茂町観音 寺 三十八神社	工芸 木造 太鼓	奉寄進ノ山城国賀茂三十八所 社ノ神樂太鼓也ノ慶長十一年 丙子九月吉日ノ南都中院御大 黒屋ノ施主又左衛門

表6 南山城の鰐口の銘文年表

名称	西暦	所在地	種類	銘文内容
銅製鰐口	1318	向日市寺戸町西野 宝菩提院旧蔵	工芸 銅造 金鼓	近江国栗本北郡駒井品大萱里 宝光寺人口等敬記 八月氏人等
銅製鰐口	1321	相楽郡加茂町西小 札場40浄瑠璃	工芸 銅造 金鼓	山城国相楽郡西小田原寺大 工左兵衛藤原元口元 年辛酉六月長祐 者頼兄
銅製鰐口	1332	八幡市八幡高坊 神心寺	工芸 銅造 金鼓	河内国茨田郡実城寺阿弥陀如 来御宝月八日願主 講衆等
銅製鰐口	1390	京都市西京区大原 野石作町1639蔵	工芸 銅造 金鼓	奉施入白山豊原寺深沙太 王宮鰐口康応二年庚午三 日願主橘橋染承
旧狛神社銅製鰐口	1399	相楽郡山城町椿井 敷堂狛神社旧蔵 (今亡)	工芸 銅造 金鼓	奉寄進山城狛井財天寶前 心永年己巳六月七日南都 村丹波内方敬白
銅製鰐口	1410	乙訓郡大山崎町大 山崎銭原1宝積 寺	工芸 銅造 金鼓	応永拾七年庚寅八月十八日 白山西少谷願主以上玖人
銅製鰐口	1425	相楽郡加茂町里 春日若宮社	工芸 銅造 金鼓	但馬国気多郡上野庄将軍若 王子鰐口也願主兼光 巳七月十日
旧燈明寺銅製鰐口	1430	奈良県吉野郡大淀 町大岩安楽寺大	工芸 銅造 金鼓	山城国相楽郡賀茂東明寺永 享二年六月十七日
銅製鰐口	1430	綴喜郡田辺町東神 屋63-1大徳 寺	工芸 銅造 金鼓	山城国綴喜郡東河原村永 二季十一日八日 間
銅製鰐口	1593	相楽郡加茂町里 常念寺	工芸 銅製 金鼓	(外区)上山城相楽郡賀茂北 村天神本願明栄向井源大 源五郎彦四季癸巳大月野 次郎禄掛岡九月吉日野 文奉和元年
銅製鰐口	1615	相楽郡加茂町大野 春日神社	工芸 銅製 金鼓	(表)奉寄進養也寺金口 為善根普國薩喜寛永 丑淨山敬白藤原三喜吉 没)三條年二月八日信伯 (文八)年二月八日
銅製鰐口	1625	綴喜郡田辺町河原 極楽寺	工芸 銅製 金鼓	(表)奉寄進養也寺金口 為善根普國薩喜寛永 丑淨山敬白藤原三喜吉 没)三條年二月八日信伯 (文八)年二月八日
銅製鰐口	1668	綴喜郡田辺町田辺 薬師堂	工芸 銅製 金鼓	(表)奉寄進養也寺金口 為善根普國薩喜寛永 丑淨山敬白藤原三喜吉 没)三條年二月八日信伯 (文八)年二月八日
銅製鰐口	1703	相楽郡山城町神童 子不晴谷神童寺	工芸 銅製 金鼓	元禄十一年霜月吉日治工京 釜座和濃據(裏)面奉寄 進北吉野山神童地院 口施主堂地院

表7 山城国一揆時代の文化財銘文年表

名称	西暦	所在地	種類	銘文内容
十八神社本殿墓股	1487	宇治市菟道奥ノ池十八神社	建築 木造 墓股	長享元年十月十六日
西光寺石造五輪塔残欠	1487	相楽郡加茂町美浪西光寺	建築 石造 五輪塔	(ア) 文明十九年 / □□□三 月
光明寺石造名号板碑	1491	相楽郡精華町乾谷北里内6光明寺墓地	建築 石造 板碑	南無阿弥陀仏 / 念仏一結衆十 七人 / 延徳三年春時正日
新殿神社石造十三重塔	1491	相楽郡精華町山田新殿神社	建築 石造 十三重	(東) / 延徳三 / 年辛亥 / 十一月十三 六日 / 西念性 / 真照口 / 盛専 / 南 / 妙 界萬 / 靈妙 / 祐 (西) / 春 / 百 / 萬遍 / 念 / 山 珍 / 妙 / 祐 (西) / 春 / 百 / 萬遍 / 念 / 山 理 / 妙 / 祐 (西) / 春 / 百 / 萬遍 / 念 / 山 明 / 妙 / 祐 (西) / 春 / 百 / 萬遍 / 念 / 山 衆 / 妙 / 祐 (西) / 春 / 百 / 萬遍 / 念 / 山
元興寺本堂柱	山城山1492	奈良市中院町元興寺	建築 木造 書	山城州乙訓郡今里 / 法皇禪寺 鎮守神前置之 / 明応二年癸丑 六月吉日修覆
木造狛犬	1493	長岡京市今里3丁目乙訓寺	彫刻 木造 狛犬	山城州乙訓郡今里 / 法皇禪寺 鎮守神前置之 / 明応二年癸丑 六月吉日修覆

含まれる物全てが検索できるようにした。表7は西暦による検索によって山城国一揆の時代(1485~1493)の文化財銘文年表を作成したものである。

表8は年号による検索によって弘安年間(1278~1288)の文化財銘文年表を作成したものであり、表9は住所コードによる検索により山城町の文化財銘文年表を作成したものである。(なお、これらの一覧表は、スペースの関係で名称・銘文の一部を省略したものである。)

このように、この文化財銘文年表のデータベースは検索されたものにより、様々な利用方法が考えられる。地域毎に検索して、地域史の一助にしたり、種類毎に検索してそれぞれの物の編年資料にするなど文化史的な利用方法などがある。さらに、当館のような企画展示を行うところでは、展示テーマに沿って時代、種類、地域を絞って展示資料の候補を選ぶこと等ができる。そして、何よりも重要なことは、各分野毎に文化史的な面でのみ扱

われていた、在地の同時代資料という一級資料である銘文がこのように交通整理される事によって歴史資料として活用できることであろう。

以上パソコンによる文化財銘文年表の作成の経過と成果を述べてきたが課題も少なくない。そのひとつは、1データあたりの情報量の問題である。それは、パソコンで検索できた個々の文化財の情報では、それをそのまま使うにはデータ量が少ないということである。それぞれの文化財のデータの多くが過去の調査によって公開されたものを参考にして集めた物がほとんどで、実物に当たっていない事や、銘文に重点を置いたこと等により、その文化財の文字による情報が中心で、そのものの形態、材質、現状、法量などの基礎的なデータが収集できていないことであろう。せっかく検索によって該当する文化財の所在が分かっても結局は実物を調査しなければならないこととなる。それぞれの文化財の写真、拓本、実測値(実測図)などの基礎

表8 弘安年間の文化財銘文年表

名称	西暦	所在地	種類	銘文内容
石造十三重塔	1278	畿喜郡田辺町草内泉 南垣外27法	建築 石造 三重塔	弘安元年成寅十一月廿六日 起立印ノ銘あり ノ大北 ノ工面 猪にも 一月行元 廿一文 六勸四年 日進
地藏石仏	1281	相楽郡加茂町河原 西念寺墓	彫刻 石造 仏像	弘安四年辛巳十月四日ノ造立之 (右)願主妙阿弥陀仏(左)
木造金剛力士立像	二1285	京都市西京区大原 野南春日町勝持 寺	彫刻 木造 仏像	弘安八年乙酉十月□□ノ法橋 湛庚□□ノ勸進□□ノ慶□
石清水別当尚清寄進銅	1286	奈良市雑司町東大 寺二月堂	工芸 銅製 鈴	奉施入ノ二月堂ノ石清水別当 ノ法印尚清ノ弘安九年ノ二月 十二日ノ
板絵著色神像 四面	1286	乙訓郡大山崎町大 山崎宝積寺	絵画 板絵 神像	(1)宝積寺鎮守八王所権現 内西間五所ノ東野大明神ノ白四六三ノ善右丁亥 田野大明年丙戌…六重妙之右方寺 安…之避嶋十卷等弘安船 加石塔并庶人向弘安船 利衆像むノ於
浮島石造十三重塔	1286	宇治市宇治川浮島	建築 石造 三重塔	弘安十年ノ丁亥八月ノ二日願 主ノ佐伯包光
岩船寺奥院不動明王磨	1287	相楽郡和東町湯船 五ノ瀬熊野神社	建築 石造 宝篋印	

的なデータを集め、パソコンによって連動して検索できるようにすることは今後の当館の課題でもある。

またひとつは、収集した文化財の範囲の問題である。文化財銘文は基本的には文字情報である。今回作成した文化財銘文年表はモノに刻まれた銘文を中心とした、しかし文字情報の最も豊富な文化財は、紙に書かれた文書典籍であるが、今回はまだデータ化できなかった。他の文化財とともに歴史資料として有効に活用するためには、これらのデータ化とその入力はずいぶん必要である。また地域的にも、南山城に限定して作業を行なった。これは、地域資料館の活動範囲を考えればやむを得ないが、銘文年表を歴史資料として有効に生かすには広い範囲の資料を相互に

比較検討する必要がある。そのためには、各地の類似施設と提携してデータを交換し合うことが必要であろう。

最後に、慶長以前の南山城文化財銘文年表の名称と所在地だけを一覧表にしてみた(表10)。校正も不完全で、確認する必要があるものもいくつかあるが、敢えて公表するのは多くの教示を得たいからである。多くの教示を戴くとともに、検索データ提供の要望には積極的に応じたいので利用を期待したい。

この文化財銘文年表を作成するにあたり多くの方の教示を得た。とくに、石造物の銘文については東清一、印南敏秀、篠原良吉、二滝泰輔、山本寛二郎の各氏、棟札の銘文については白石悦二、福田敏朗の各氏、パソコンについては土橋誠、百瀬正恒の各氏に大変お

表9 山城町の文化財銘文年表

名称	所在地	西曆	種類	銘文内容
銅製半円方形帯神獸鏡	相傳 樂郡山城町上狛	291	考古銅鏡	元康□年八月二十五日氏作鏡 □□□□
木造伎楽面	相子 樂郡山城町神童	1196	彫刻木造楽面	建久七、四月七日
石造笠塔婆	相神 樂郡山城町平尾	1274	石造塔婆	(キリク) (右) 文永十一 年(八)月廿九日(父)師立 (左)志者平丁(右)生治
石造十三重塔	相天 樂郡山城町神童	1277	石造十三重塔	建久七、四月七日
法蓮寺旧本堂棟札	相坤 樂郡山城町上狛	1364	木造棟札	(表) 奉建立山国相樂郡上 狛庄) 麗寺東金此地二移 当堂) 上麗之東堂上標日願 貞治) 高麗之年三金上二 貞) 上) 棟) 奉) 立) 山) 国) 相) 樂) 郡) 上) 春) 上) 辰) 寺) 東) 堂) 上) 標) 日) 願) 辻) 坊) 郎) 兵) 衛) 原) 政) 勝) 大) 工) 裏) 西) 市) 衛) 藤) 政) 長) 衛) 一) 代) 敏) 子) 本) 高) 寺) 者) 皇) 兵) 十) 本) 尊) 塚) 天) 皇) 御) 也) 来) 百) 東) 堂) 之) 奉) 寄) 如) 略) (略) 濟) 春) 朝) 本) 山) 進) 弁) 財) 天) 宝) 前) 心) 永) 六) 年) 己) 城) 月) 日) 南) 都) 岡) 村) 丹) 波) 内) 方) 已) 敬) 長) 管) 重) 十) 明) 大) 明) 寺) 国) 神)
旧狛神社銅製鰐口	相敷 樂郡山城町椿井	1399	工芸銅金	工芸銅金
絹本著色十二天像木箱	相相 樂郡山城町平尾	1459	絵画絹本	重十明大明寺国神
絹本著色阿弥陀如来像	相西 樂郡山城町上狛	1496	絵画絹本	重十明大明寺国神
神童寺石造燈籠残欠	相神 樂郡山城町神童	1504	工芸石造燈籠	重十明大明寺国神
十輪寺地藏石仏	相神 樂郡山城町平尾	1505	石造彫刻	重十明大明寺国神
地藏磨崖仏	相磨 樂郡山城町平尾	1513	石造彫刻	重十明大明寺国神
和伎座天乃夫岐売神社 本殿棟札 (涌出宮)	相里 樂郡山城町平尾	1521	木造棟札	重十明大明寺国神
上狛惣墓石造背光宝塔	相共 樂郡山城町上狛	1543	建築石造	重十明大明寺国神
西福寺木造地藏菩薩立像	相小 樂郡山城町上狛	1545	彫刻木造	重十明大明寺国神

名称	所在地	西暦	種類	銘文内容
神童寺本堂内陣虹梁	相楽郡山城町神童 子不童寺	1548	建造木内陣虹	天文十七年二月廿二日
狛神社四角形石灯笼	相楽郡山城町椿井 天敷堂狛神社	1556	建造工石石灯笼	奉世折庄内口總檀那繁昌現当二 祈口財女天御者也山燈上狛子増 秀日敬千時弘者前長城上狛子吉 弘治四井年加午二寄日ノ藏王堂 ノ椿井加公寄進
木造太鼓	相楽郡山城町神童 子不童寺	1558	建造工木太鼓	（表）ウムノジヒチキ南カ ノ柱立十ハ一廿月井并ノノク シタ寅ノ大イ施順子北ノ日ノサ イ年ッ良ノチ時同ヒンハ禪八 六モ奈茂坊子主ノゴ雲天正十 七モ奈茂坊子主ノゴ雲天正十
松尾神社撰社御霊社棟札	相楽郡山城町椿井 松尾神社	1578	建造木棟札	（表）ウムノジヒチキ南カ ノ柱立十ハ一廿月井并并ノノク シタ寅ノ大イ施順子北ノ日ノサ イ年ッ良ノチ時同ヒンハ禪八 六モ奈茂坊子主ノゴ雲天正十
紙本著色狛秀綱像	相楽郡山城町上狛 良町西福寺	1584	繪紙肖像	（表）ウムノジヒチキ南カ ノ柱立十ハ一廿月井并并ノノク シタ寅ノ大イ施順子北ノ日ノサ イ年ッ良ノチ時同ヒンハ禪八 六モ奈茂坊子主ノゴ雲天正十
和伎座天乃岐壳神社本殿棟札（涌出宮）	相楽郡山城町平尾 里屋敷54涌出宮	1588	建造木棟札	（表）ウムノジヒチキ南カ ノ柱立十ハ一廿月井并并ノノク シタ寅ノ大イ施順子北ノ日ノサ イ年ッ良ノチ時同ヒンハ禪八 六モ奈茂坊子主ノゴ雲天正十
板碑形大日如来石仏	相楽郡山城町綺田 山際神社前	1599	彫石仏	（ア）
十輪寺地藏石仏	相楽郡山城町平尾	1606	彫石仏	（カ）
上狛惣墓阿弥陀石仏	相楽郡山城町上狛 共同墓地	1607	彫石仏	念敬二山松長番春主ノ衛門尉
松尾神社拜殿棟木	相楽郡山城町椿井 松尾神社	1610	建造木棟木	念敬二山松長番春主ノ衛門尉
法蓮寺旧本堂棟札	相楽郡山城町上狛 埠町16法蓮寺	1652	建造木棟札	（表）高麗西白安上本松元也我權伍郎半藤
松尾神社拜殿棟木	相楽郡山城町椿井 松尾神社	1693	建造木棟木	（表）高麗西白安上本松元也我權伍郎半藤

世話になった。

この文化財銘文年表の作成は、銘文資料の  
収集、入力が高橋と田中が共同で行ない、デー

ターベースの作成は田中が、本稿の起草は高  
橋が行なった。

表10 南山城文化財銘文年表

西曆	名	称	所在地	種類
291	銅製	形神鏡	相	古
646	宇治	第75号	相	古
705	宇治	第135号	相	古
782	長岡	第956号	相	古
783	長岡	第207号	相	古
784	長岡	第208号	相	古
787	長岡	第237号	相	古
787	長岡	第1172号	相	古
787	長岡	第376号	相	古
789	長岡	第230号	相	古
789	長岡	第567号	相	古
789	長岡	第8号	相	古
789	長岡	第82号	相	古
789	長岡	第964号	相	古
789	長岡	第11号	相	古
789	長岡	第76号	相	古
789	長岡	第9号	相	古
789	長岡	第5号	相	古
789	長岡	第103号	相	古
789	長岡	第83号	相	古
789	長岡	第80号	相	古
789	長岡	第86号	相	古
789	長岡	第85号	相	古
789	長岡	第100号	相	古
789	長岡	第71号	相	古
790	長岡	第55号	相	古
790	長岡	第69号	相	古
790	長岡	第68号	相	古
790	長岡	第53号	相	古
790	長岡	第561号	相	古
790	長岡	第563号	相	古
790	長岡	第70号	相	古
790	長岡	第67号	相	古
790	長岡	第927号	相	古
790	長岡	第552号	相	古
791	長岡	第928号	相	古
792	長岡	第544号	相	古
792	長岡	第543号	相	古
793	長岡	第537号	相	古
946	銅造	如坐像	相	古
955	銅造	瓦錢	相	古
960	鳩木	坐像	相	古
1005	旧木	坐像	相	古
1047	鳳凰	坐像	相	古
1060	鳳凰	坐像	相	古
1061	鳳凰	坐像	相	古
1105	鳳凰	坐像	相	古
1116	鳩木	坐像	相	古
1121	木造	坐像	相	古
1145	牛木	坐像	相	古
1175	牛木	坐像	相	古
1178	旧木	坐像	相	古
1181	旧木	坐像	相	古
1196	笠木	坐像	相	古
1196	笠木	坐像	相	古
1208	銅製	水鏡	相	古
1208	銅製	水鏡	相	古
1208	銅製	水鏡	相	古
1209	銅製	水鏡	相	古
1210	銅製	水鏡	相	古



























